

沖縄タイムス
平成13年9月9日(日)
朝刊18面(市町村欄)

レーダーで黒潮観測

データはネットで公開

八重山

を観測対象海域とし、エルニーニョ現象やラニーニャ現象との関連が指摘されている黒潮の流速などの季節変動や経年変動を観測する。

一九九九年四月から事業着手し、総事業費は約三億五千万円。今年七月、石垣市野底と与那国町与那国に、高さ十一メートルの送受信アンテナ計三十四基の設置が完了した。観測は石垣島と与那国島に配置した二台一組の送受信装置を使って行う。

中城村の同センサーで処理される観測データは、本年度中にインターネットで公開予定。

同センサーは「海洋学や気象学だけでなく、水産業や船舶の安全確保にも役立てたい」と意気込んでいる。

【八重山】独立行政法人通信総合研究所沖縄亜熱帯計測技術センター(中城村)は、日本の気象変動に影響を与えているとされる黒潮の実態を解明する「遠距離海洋レーダー」を石垣島と与那国島に設置、七日までに本格

的な観測をスタートした。遠距離海洋レーダーは同センターが独自に開発した装置で、沖合約二百キロ

にわたる広範囲の海流の状況をリアルタイムで観測できるのが特徴。東シナ海の黒潮流入域

黒潮の実態解明に期待がかかる通信総合センターの遠距離海洋レーダーは石垣市野底

